

大橋ゆかり 著

## 『セラピストのための 運動学習 ABC』

高橋正明  
(昭和大学保健医療学部)

理学療法の世界に極めてユニークで希有な本が誕生した。「セラピストのための運動学習 ABC」である。一種独特とか物珍しいと言っているのではない。唯一、無比、まさに今という時代の必要性において、その抽象的な概念説明のわかりやすさにおいて、そして全体を通して理学療法方向性を示唆するその説得力において、これほど卓越した本は見たことがないという驚きの表現である。

本書のテーマである運動の制御と学習は、アメリカでは理学療法の新しい枠組みの土台と位置づけられ、わが国では多くの人が一度は飛びつきながら、その難解さ故に途中であきらめてしまう、なかなかやっかいな領域である。アフォーダンス、運動技能、エコロジー、学習の転移、課題指向型アプローチ、逆振り子、自己組織化、スキーマ理論、運動の戦略、ダイナミカルシステムズ理論、ファイズシフト等々、抽象的で非日常的な言葉が並ぶ。この業界で、これらを他人にわかりやすく説明できる人はおそらくいない。ところが本書はそれをやってのけているのである。しかも、実は、本書の面目躍如たるところはさらに他にあるのだ。それらを理論的に関連づけ、歴史的に関係づけることで有機的につながった全体像の基本的枠組みを浮き上がらせ、それを読者の論理的思考プロセスに沿ってわか

りやすく提示しているのである。通読すれば、知らないうちに新しい枠組みの中でものを考えている自分に気づくであろう。

著者は茨城県立医療大学教授の大橋ゆかりさん。私が教師になって初めて担任をしたときの学生である。もちろん優秀であった。能力の高さに何度も驚かされた。しかしながら新しいことに器用に対処できるタイプではなかった。納得がいかないとじっと考え込んでしまう。終章で示されている本書全体の俯瞰図が描けるまでに、おそらく自分自身を何度も相当に追い込んだはずである。スキーマ理論はほぼ完璧に理解したといえるほど認識を高めていることもそれを裏付けているように思う。

タイトルの ABC は、斜め読みしてもわかるほど初歩的という意味では決してない。運動の制御と学習に関する新しい流れをなんとか理解してもらおうと、臨床での疑問や事象の例示、思考過程を考慮した構成と大変なご苦労が伝わってくるが、それによって概念自体が易しくなるわけではない。むしろ、その学問的枠組みがいまだ ABC のレベルにあるというほうが納得できる。今のレベルではとてもまだ人の運動を解き明かすことはできない。しかし今後明らかにされる DEF のためにこの ABC が必須科目となることは間違いない。本書は学生のみならず全ての理学療法士を対象とした、わかりやすくかつ読み応えのある力作である。ぜひご一読を勧める。

●B5 判 2 色刷 290 頁  
定価(本体 7,000 円+税)  
2004 年 文光堂・刊